

復興検証の中で今後の課題として委員から出された意見

中越大震災復興検証調査会において、現時点で課題として委員から出された意見であり、引き続き最終報告に向けて整理する。

【生活再建】

- 1 復興公営住宅入居者の高齢化や、同居者の入院、施設入所、死亡などによる独居化への対応。
- 2 住宅を移転再建した場合、農業や祭事などの連帯・連携の機会が失われることや、従前集落との連携を図る必要があることなどの移転先のコミュニティの問題。
- 3 防災集団移転事業実施地域において移転せず地域に残った世帯がある場合、世帯数減少により地域全体で管理していた道路や設備の維持が困難になっていること。
- 4 これまで積極的に地域の再生のため復興基金事業を活用してきた地域の復興基金事業終了後の見通しや展開。

【生活基盤の復旧】

復旧が必要な水道、下水道、ガス、電気などライフラインの異種の工事間の連絡調整を十分に行い、工事の効率化を図ること。

【中山間地域の創造的復興】

- 1 高齢化による離農が増加する中、耕作放棄を防ぐために、区画整理を行うこと及び営農体制の再建を推進すること。〈中山間地域に共通する課題〉
- 2 復興に大きな役割を果たしてきた地域復興支援員など、過疎高齢化が進む地域が自立を図っていくための人的支援や中間支援の今後のあり方（制度の縮小、位置づけの減少、異なる制度への移行、任期後の活動・連携方策など）。
- 3 被災地の人口は減ったものの、他地域の人々や地域外に移転した親族とのつながりを復興終了後も維持・拡充すること。
〈中山間地域の将来的な支援を考える際の課題〉

- 4 コミュニティビジネスだけでは家計を支えることが困難な子育て世代を支え、定住促進となる経済的な支援。＜中山間地全体に共通する課題＞

【産業・観光の復興】

- 1 防災・救済関連商品や被災経験を活かした防災教育などの震災関連産業化に力を入れること。
- 2 災害発生やそれに伴う観光自粛により観光産業がダメージを受けることを前提とし、予め災害対策として観光に対するリスク管理を検討しておくこと。
＜全県的な課題＞

【まちの再生】

- 1 集約型都市構造の実現に向けた中心市街地活性化の継続的推進。＜全県的な課題＞
- 2 土砂災害防止警戒区域（イエローゾーン）に居住していることへの対応。
＜全県的な課題＞

【災害に強い県づくり】

- 1 度重なる災害の対応を行った職員の異動・退職等による経験や知見が失われることのないよう、組織の知恵としていくための継続的な取組。
- 2 中越大震災及び中越沖地震などの経験を通じて組織化の進んだ自主防災組織や、災害対応の知見を生かした防災教育プログラムの実効性確保。
- 3 被災地が立ち直るためには産業活動の継続が不可欠であるため、災害発生時などにおける事業継続計画の策定の推進。
- 4 行政庁舎の被災に伴う災害対策本部機能の確保が困難な場合があったことを踏まえ、災害時の拠点施設となる庁舎の耐震補強工事や防災関連設備の補強推進。

【震災の経験と教訓の継承・発信】

- 1 震災の記憶を風化させることなく、次の世代に伝えていくこと。
- 2 震災メモリアルと教育機関や産業界などが連携した経験と教訓のより多面的な発信。